

令和3年度 茨城県立農業大学校評価表

重点目標 I 【 入学生の確保 】

1 現状

- ◎ 本校養成課程の入学者は、平成 21 年度の専修学校化以降、変動はあるものの定員(80 人)の約 8 割を維持している (H20 : 49 人、H21~R3 平均 : 63.8 人)。一方、本県の 15~19 歳人口は緩やかに減少を続けており、令和 2 年度の学校基本調査によると、高校生徒数は 10 ヶ年で 5.5%、小学児童数は 17.2%それぞれ減少している。
- ◎ オープンキャンパスの参加者や高校訪問での面談者の内、受験対象者(高校 3 年以上)の 5~7 割が本校を受験している。
- ◎ 近年の入学生へのアンケートにより、「本校を知ったきっかけ」は保護者及び高校教員からの情報提供が約 6 割で推移している。また、農大ホームページによる情報入手が R3 入学生は 18%と増加した。

2 課題

本校受験生の積極的な掘り起こしが重要であるため、受験対象者へのアプローチ並びに保護者及び高校教員への情報提供を充実することが必要である。また、高校生が主体的に情報を入手できるホームページについては、随時更新していくことが必要である。

3 評価項目別の評価及び実績・課題等

(1) 受験対象者へのアプローチの充実

達成度	概要	関係者評価委員会からのコメント(全般)
A	オープンキャンパスの開催、ブログによる情報発信、高校・進路ガイド会社等との連携において、方策どおりに実施し、それぞれ評価指標を上回る結果が得られたとともに、新たに本庁と連携した農林水産部 Instagram への投稿を行うなど、受験対象者へのアプローチは充実できた。これらの結果、令和 4 年度合格者は 66 人となり、入学者数は 61 名(近年 5 か年平均値 60.8 人)を超える見込みとなった。	計画どおりに実施され、目標を達成できたと評価できる。SNS を活用した学校の魅力発信などは、今日的かつ有効な方法と考えるので、オープンキャンパスと SNS を効果的に組み合わせた取り組みの充実を期待したい。

評価基準(達成度)			
A	100%以上の達成	D	40~59%の達成
B	80~99%の達成	E	39%以下の達成
C	60~79%の達成		

具体的方策及び評価指標	達成実績 ※【 】は前年度実績	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント																
<p>以下の取組みを通じて、令和 4 年度の入学者数 61 人(近年 5 か年平均値 60.8 人)以上を目指す。</p> <p>1 オープンキャンパス及び個別見学受入れの充実等</p> <p>(1)【充実】オープンキャンパスの開催 高校生が進路を決定する 8 月までに、各キャンパスで 2 回ずつ開催する。さらに、6 月「学校説明会」においては高校教員に対して進路指導の観点からの説明機会を設ける。 ・早期開催 6、8 月 → 6、7 月 6 月「学校説明会」 7 月「体験入学会」</p> <p>・高校教員向け説明機会の新設 6 月「入試等に関する説明会」</p> <p>・本校学生の運営参加による農大 PR の強化 本校学生延べ 70 人参加</p>	<p>合格者数 66 人 <参考>各部の合格者数(募集人数) 農業部 46 人(50 人)【R2 : 47 人】 園芸部 20 人(30 人)【R2 : 20 人】</p> <p>1 オープンキャンパス及び個別見学受入れの充実等</p> <p>(1) オープンキャンパスの開催 参加人数内訳 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学校説明会</th> <th>体験入学会</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業部</td> <td>52 (6/5)</td> <td>59 (7/29)</td> <td>111</td> </tr> <tr> <td>園芸部</td> <td>16 (6/12)</td> <td>21 (7/30)</td> <td>37</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>68</td> <td>80</td> <td>148*</td> </tr> </tbody> </table> <p>注) () 内は開催期日。 ※) 参加実人数 102 人【R2 : 104 人】 ・高校教員向「入試等に関する説明会」 6/5(農業部「学校説明会」同時開催) 高校教員 4 人</p> <p>・本校学生の参加延べ人数 79 人【R2 : 96 人】</p>		学校説明会	体験入学会	計	農業部	52 (6/5)	59 (7/29)	111	園芸部	16 (6/12)	21 (7/30)	37	計	68	80	148*	<p>概ね目標入学者を確保できる見込みであることから、基本的に次年度も方策を継続して実施する。</p> <p>園芸部の定員割れが大きい見込み。このため、園芸部オープンキャンパスへの参加人数を増やす工夫(ブログによる情報発信強化、高校訪問時の園芸部紹介の充実)をする。また、体験入学会においては、農業部で設けている「学生による研究発表」について、園芸部においても開催できるよう検討する。</p> <p>園芸部オープンキャンパスにおいても高校教員向「入試説明会」を開催できるよう検討する。</p>	<p>普通科の教員を対象とした教員向け説明会の充実を願いたい。</p>
	学校説明会	体験入学会	計																
農業部	52 (6/5)	59 (7/29)	111																
園芸部	16 (6/12)	21 (7/30)	37																
計	68	80	148*																

<p>(2) 【継続】個別見学に関する情報発信の強化 個別見学目標人数 5人/年 ・平日受入れのPR HPに随時掲載（オープンキャンパス終了後は、トップページの「注目情報」にも掲載）。</p> <p>・休日受入れ期間の設定 オープンキャンパス終了後に重点期間(8月)を設定し受け入れる。</p> <p>(3) 【新規】駅周辺での学校説明会開催の準備 ・高校へのR5入学生向け学校説明会開催の周知 〔開催年月：R4.5月(予定) 会場：水戸〕</p> <p>2 広報活動の推進 (1) 【継続】ブログによる情報発信 合計76本以上/年 一人当たり3.6本以上/年 〔農業部 47本以上/年 園芸部 29本以上/年〕</p> <p>3 高校・進路ガイド会社等との連携 (1) 【継続】出前授業等(高大連携講座)の実施 10回(400人)/年 (2) 【継続】各高校進路説明会への参加 25回/年</p>	<p>(2) 個別見学に関する情報発信の強化 個別見学受入実績 8人/年【R2:5人/年】 ・平日受入れのPR HP随時掲載 トップページ「注目情報」掲載 8/4~12/23【R2:7~12月】</p> <p>・休日受入れの実施 1人【R2:2人】を受入</p> <p>(3) 駅周辺での学校説明会開催の準備 コロナ感染拡大状況を踏まえ中止</p> <p>2 広報活動の推進 (1) ブログによる情報発信 合計84本/年【R2:74本/年】 1人当たり4.0本/年 〔農業部 73本/年 園芸部 11本/年〕</p> <p>(2) 【新規】本庁との連携 ・農林水産部 Instagram「aff_ibaraki」への「授業・実習風景等」投稿 3回/11月</p> <p>3 高校・進路ガイド会社等との連携 (1) 出前授業等(高大連携講座)の実施 19回(221人)/年【R2:13回(434人)/年】 (2) 各高校進路説明会への参加 32回/年【R2:21回/年】</p>	<p>コロナ禍並びに学生募集を強化したい園芸部PRに対応した「オンライン説明会・相談会等」を新たに開催できるよう検討する。</p> <p>高校生の情報入手先の約2割がホームページであることから、園芸部のブログ情報発信数を増やす。さらに、学校生活の魅力をより強く伝えられるよう、学生(自治会等)が作成したブログ原稿の掲載について検討する。</p> <p>R4 ブログ発信目標数 全体80本/年 〔農業部 50本/年 園芸部 30本/年〕</p> <p>説明会は、そのほとんどを農業部職員で対応しているため、園芸部職員の参加回数を増やすことを検討する。</p>	<p>出前授業や校外学習の受入れ、進路相談の充実を図り、PR活動を行ってほしい。</p>
---	--	--	--

(2) 保護者及び高校教員への情報提供の充実

達成度	概要	関係者評価委員会からのコメント
A	ポスター等配布やホームページ更新等による広報活動の推進、教務職員による高校訪問を実施した。ポスター配布が5月に完了できなかったこと、関連高校教員等への農業技術等講座が7回となったことなど評価指標をやや下回った方策があるものの、「全国農業担い手サミット in 茨城」やJAグループ茨城（中央会）と連携して「学生の主張等」の動画配信に新たに取り組んだほか、県内全高校128校を訪問するなど、保護者及び高校教員への情報提供は充実して展開できた。	オンラインによる説明会の実施など外部要因に左右されない方式が重要と考える。農業関連高校教員への様々な研修の機会を増やしていただきたい。

評価基準(達成度)			
A	100%以上の達成	D	40~59%の達成
B	80~99%の達成	E	39%以下の達成
C	60~79%の達成		

具体的方策及び評価指標	達成実績 ※【 】は前年度実績	次年度の課題と改善策	関係者評価委員会からのコメント
<p>1 広報活動の推進</p> <p>(1) 【充実】 募集ポスターの配付及び広報誌等への掲載依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 配布、掲載依頼の早期化 7月 → 5月 ・ 掲載案文の提示 <p>(2) 【継続】 HP掲載情報の更新 1回以上/月</p> <p>(3) 【継続】 同窓生を通じた募集活動 H10卒同窓生への学校案内発送 8月</p> <p>2 高校訪問の実施</p> <p>(1) 【継続】 教務職員による高校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県内最重点校(農業関連高校)及び重点校(在校生出身校)等を訪問し、進路指導教諭、3学年担当教諭等との情報交換を実施 65校以上/9月まで ・ 農業担任以外の教員への「農業」の紹介 雑誌「農業茨城」の配付 <p>(2) 【継続】 幹部職員による最重点校等の訪問等 延べ10校/年</p> <p>3 【継続】 県内高校との交流・意見交換 本校の実習指導の内容を農業関連高校等の教員にPRすることを兼ねて、農業技術等講座(高大連携講座)を継続実施。 8回/年</p> <p>4 【継続】 組織的対応 学生募集委員会で、今までに構築した学生募集のノウハウの共有化。</p>	<p>1 広報活動の推進</p> <p>(1) 募集ポスター・チラシ等の配付及び広報誌等への掲載依頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文書による依頼(掲載案文添付) 5~7月 【R2:7月】 市町村、JA等355か所 ・ 訪問による依頼 5~7月 【R2:6~7月】 普及センター12ヶ所、市町JA等36か所 【R2:16ヶ所】 <p>(2) HP掲載情報の更新(2/15現在) 1.5回/月【R2:2.6回/月】 (参考:計17回/年【R2:31回/年】)</p> <p>(3) 同窓生を通じた募集活動 学校案内発送 8月 【R2:10月(H9卒同窓生)】</p> <p>(4) 【新規】 関係機関と連携した学生の動画配信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国農業担い手サミット in 茨城 「学生メッセージ」 11/18 ・ JAグループ茨城(中央会)Youtubeチャンネル「対談:農業で挑戦したいこと」 <p>2 高校訪問の実施</p> <p>(1) 教務職員による高校訪問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 最重点校を始め県内全高校の訪問 5~7月 計128校/年【R2:20校/年】 10月 最重点校再訪問 3校【R2:0校】 ・ 農業担任以外の教員への「農業」の紹介 雑誌「農業茨城」の配付128校【R2:0校】 <p>(2) 幹部職員による最重点校等の訪問等 ・ 7校/年【R2:3校/年】</p> <p>3 県内高校との交流・意見交換 農業関連高校教員等への農業技術等講座(高大連携講座)の実施 果樹栽培管理講習7回/年【R2:8回/年】</p> <p>4 組織的対応 高校訪問マニュアル(R3版)の整備(5月)、活用(5~7月)</p>	<p>募集活動を継続する。 H9卒同窓生 → H10卒同窓生</p> <p>園芸部の魅力を伝えられるよう、パンフレットを作成・配付するとともに農業部も含めた全教員が説明ポイントを事前に学習するなど、取組みを深化させる。</p> <p>農業関連高校のニーズに対応した農業技術等講座(高大連携講座)を継続する。</p>	<p>農業関連高校教員への様々な研修の機会を増やしていただきたい。</p>